

「働く私を動かした言葉や出来事」 274作品から入選作品3点を決定

NPO法人キャリア権推進ネットワーク（戸茱利和理事長）は、平成28年6月20日、記者会見を開催し、第1回「仕事のルビー 働くサファイア」（通称「ルビサファ」）の入選3作品を発表した。応募者の年齢層は10代から80代までと幅広く、日本国内の各地域はもとよりウズベキスタン、フランス、ニュージーランド、米国・ハワイなど海外からの投稿も含めて、応募総数は274作品にのぼった。

仕事の「キラリ」を未来に伝える事業

「ルビサファ」は、「働く私を動かした言葉や出来事」に関する250字の投稿を募集し入選作品を決定するもの。入選作品以外の作品も、可能な限り保存して未来に伝達するという。同NPOでは、これを「仕事とキャリアのアーカイブ構築事業」と銘打って、「キャリア権シンポジウム」「キャリア権ワールド・カフェ」「キャリア権コミュニケーションサロン」「キャリア権出前授業」などと並ぶ基幹事業の1つに掲げている。

同日開催された同NPOの平成28年度総会にて、ルビサファの選考委員長を務めた戸茱理事長は「働く人達一人ひとりの職業キャリアには、キラリと光る言葉や出来事が必ずあったはず。それを250字の投稿によって、働くことの意義や仕事のやりがいを共有し、『仕事とキャリアのアーカイブ』として集積し保存していくことを目的として取り組むものです」と語った。

その後、ルビサファの入選3作品が発表され、選考副委員長を務めた菊池桃子理事

による3作品の朗読が行われた。

広範な世代・地域から約270作品が

第1回のルビサファには、10代の高校生から80代まで、国内の各地域はもとよりウズベキスタン、ニュージーランド、フランス、英国、米国など広範な地域から274作品の応募があった（締切りは平成28年2月29日、男女比は男性約4割・女性約6割）。

「キラリしごと大賞」には、米国ハワイ州マウイ島在住の金安理香さん、「ルビー賞」には大阪府の佃京子さん、「サファイア賞」には東京都の新井幸代さんが輝いた（28ページ、29ページ参照）。

なお、「ルビー賞」と「サファイア賞」の格付けは同一であり、副賞も同一だ。戸茱理事長は、記者会見にて「将来的には文学の『直木賞』と『芥川賞』のように特色を出していきたい」旨述べていた。

応募の資格要件を満たした267件の作品は、同NPOのホームページに掲載されている（<http://www.career-ken.org/>）。第2回の応募は今秋にも開始される予定だ。

第1回「仕事のルビー 働くサファイア」

～働く私を動かした言葉や出来事～

入選作品

★キラリしごと大賞 金安 理香 さん（米国ハワイ州マウイ島）

夫婦不仲な折 度々3歳の娘と共に家を飛び出していた。

友人宅へは もう恥ずかしくて頼れず公園の駐車場に車を止め泣く事しか出来ずに居た。

朝方娘が目を覚まし「マミーが泣くなら私も泣く！」と意味も分からぬまま泣き出した。

はっとさせられた。

“私が泣けばこの子も泣く。私が幸せにならなければこの子は不幸になる。”

数年悩んだ離婚を此処で決意した。

そこからの私は 無我夢中で仕事を掛け持ち PCを独学で学んだ。

それを活かしたくHPを制作。

それも活かしたくて旅行代理店の資格を取得。

その全てを活かしたくて このマウイ島で自らガイド業もこなしている。

お客様に触れ喜んで頂ける感動は 仕事の源になっています。

悲しい涙ばかり流していた母に導きの涙を流してくれた娘。

人生を活かしてくれてありがとう！

★ルビー賞 佃 京子 さん（大阪府）

「後にする人のことを考えて仕事をしなさい」

学校を卒業して初めて就職した会社で、

上司だった女性に徹底的にこう教え込まれました。

組織に属している以上、自分だけが分かればいい、自分さえ良ければいい、そういう仕事のやり方はするな、と。

ともすると全て1人で抱え込もうとする癖のあった私なのですが、彼女の指導のおかげで、仕事だけではなく、考え方や想いも仲間と共有することの大切さと同時に、その根本にはコミュニケーションが重要であることも学びました。

そしてそれは、どんな資格よりも強い武器であると感じています。

★ サファイア賞 新井 幸代 さん（東京都）

目をかけてくれていた先輩には相談せず、転職を決めた私。
 退社日を伝えると絶句して、涙目になって引き止めてくれようと思いました。
 そんな先輩が、寄せ書きのカードに書いてくれた言葉が
 「社会人になったら、自分で卒業を決めなければならない」でした。
 ブラック寄りの会社でしたが、最終入社日ばかりは楽しい思い出が浮かび、未練
 が出てきたところだったので、力強く送り出してもらった気がしました。
 何につけ、辞めることはエネルギーが必要で、惰性で続ける方が案外楽です。
 そんな時には今でもカツを入れられる言葉です。

《参考》 菊池桃子 理事の作品

半年ほど前のこと。芸能界、大学教員、政府会議メンバーとして忙しく働いている私は、家庭での料理など家事全般が手抜きになり、子供たちに申し訳なく思っていました。気持ちも落ち着きません。

そこで、他大学で長年教員をし、子育ても両立なさった60代の先輩女性に、「時間管理のコツを教えてください」と悩みを打ち明けました。

すると先輩は、「限られた24時間について悩むより、完璧にしないと落ち着かない、そんな自分について悩みなさい」とアドバイスをくれました。要は24時間を変えるより、自分を変える方がたやすいのだと。心と向き合う工夫で悩みは激減したのです。



▲選考委員長を務めた戸茆利和理事長（左）と副委員長を務めた菊池桃子理事（右）

〈募集概要と応募結果〉

【募集内容】働く私を動かした言葉や出来事に関する250字のつぶやき

【表彰】「キラリしごと大賞」（1名）：賞状と副賞（3万円の図書券）

「サファイア賞」（1名）：賞状と副賞（1万円の図書券）

「ルビー賞」（1名）：賞状と副賞（1万円の図書券）

【応募数】274作品 【応募年齢】10代から80歳以上まで

【応募者の在住地域】国内は、北海道から九州・沖縄まで

外国は、アジア・オセアニア、欧州、米国まで

【選考】2016年2月29日（月）に応募を締め切り、3月28日に同NPOの選考委員会（8名）による選考を実施した。

【選考委員】委員長／戸茆利和理事長

副委員長／菊池桃子理事（女優・戸板女子短期大学客員教授）

委員／同NPO担当部長

【主催】NPO法人 キャリア権推進ネットワーク